

スタイル・ルール

このスタイル・ルールに従わない原稿は、レフェリーにかけることなく投稿者に返却されるので、投稿に当たって熟読すること。

(1) 制限字数と印刷方法

1. A4 縦置き、ワープロを用い、横書きとし、1枚に1行40字×30行で、十分な余白を取って印刷すること。
2. 投稿規定の字数は、本文・注については、1行字数(40字)×行数によって算出する。図表については、『経営史学』の誌面に無理なく配置された状態を想定し、小さな図表(『経営史学』の誌面半頁以下)は800字、大きな図表(『経営史学』の誌面1頁相当)は1600字と換算する。
3. 図表は本文の中に組み込まず、別紙各1枚に1図あるいは1表を印刷する。注は文末にまとめ、文字ポイントは本文と同じとする。
4. 図表の分量は規定字数上限の20%以内とする。

(2) 文章一般

1. 投稿原稿には、投稿者名を記入せず、「拙稿」「拙著」「別稿」などそれを特定させるような表現を使用しない。また投稿時には、付記あるいは謝辞を記載しない。
2. 学術論文としての形式、体裁を整えていない原稿、その他『経営史学』にふさわしくないと判断される原稿は、編集委員会の判断で外部審査を行わずに投稿者に返却される。
3. 文献引用の方法については、別紙の文献表記方法に従う。
4. 掲載が確定した時点で、原稿を入力したデータファイルを経営史学会事務局に提出する。また、「論文」および「研究ノート」については、300語程度の英文レジюмеを提出する。

(3) ヘディング

1. ヘディングは1, (1), ①の3階層とする。
2. はじめに、おわりにもヘディングをつける(「1. はじめに」とする)。

(4) 引用

1. 短い引用は「」の中に入れること。

例

……この件につき、○×は「この事態は極めて遺憾であるので、早急に是正する必要がある」との意見を表明した。

2. 3行以上にわたる引用は、本文から1行あけて、本文より2字インデントすること。

例

……この点につき、○×は以下のように述べている(若森, 2015, 30)。

2015年7月現在における××市の人口は30,000人を若干下回っているから、市への昇格への基準を満たしてはいない状況にあるといえる。しかしここまで住民が盛り上がっているのであるから、なんとかする必要があると思う。

以上のような○×の考えにより、××市は特別の対策を取るようになった。

3. あまりに頻繁な原史料の引用は、読みにくいばかりか、かえって印象を弱めてしまうこともあるので、その使用については、注意すること。

(5) 図表

1. 図1, 表1とし, 第1図, 第1表とはしない。
2. 図と表には, かならずタイトルをつけ, さらに(出所), (注)の順番で出典と注を明記する。

例

表1 ××市における人口の推移
(単位:千人)

年	男	女
1989	1,234	2,345
1990	1,456	2,567
1991	1,678	2,678

(出所)「平成3年人口表」,『〇〇家文書』(××市資料館所蔵資料, RZ-1129)。

(注)1. 男女ともに20歳以上の人数を示す。

2. 1989年の男子には他県からの流入者1名が含まれていない。

3. 図と表は文中に必ず引用し,本文中に挿入して欲しい場所を1行空けて明記する。ただし段落の切れ目に挿入すること。

例

……××市は平成に入ると機械工業が急速に発達し,下請工場も多数設立されるに至った。その結果人口は着実に増加した(表1)。この点はさきに述べた点からも十分明らかであると思われる。

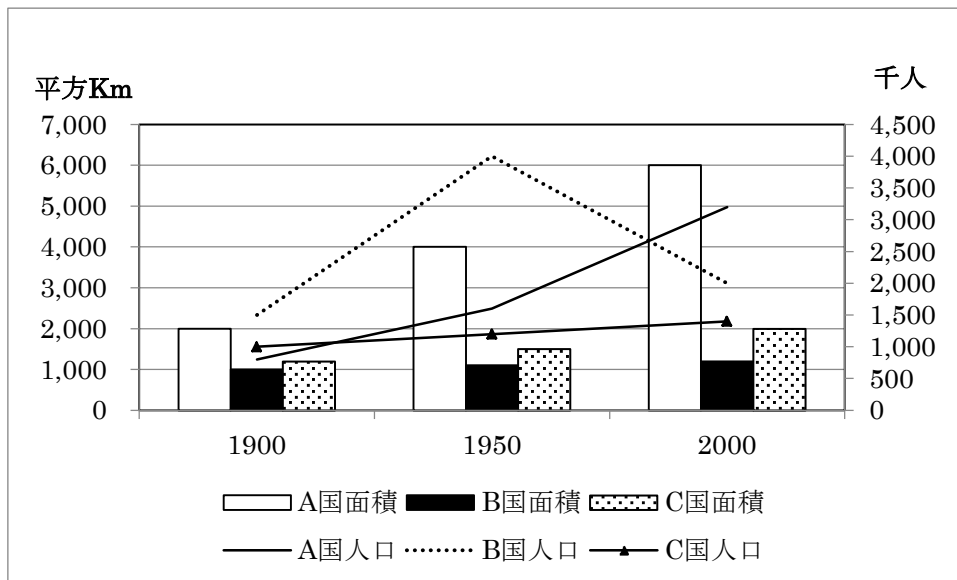
表1をこの付近に挿入

それに対して△△市は衰退が著しく,その結果,昭和期にはほとんど差のなかった両市の人口には大きな違いが発生した。」

図についても同様とする。もちろん「図1によれば」など引用の方法は自由である。

例

図1 三国の面積と人口の推移



(出所)「20世紀の面積と人口」、『〇〇家文書』(××市資料館所蔵資料, RZ190)。

(注) 面積は左目盛り, 人口は右目盛り。

4. 図表は白黒で区別できるように, パターンや点線・マーカーなどを利用すること。カラー印刷やグラデーションが不鮮明なものは受け付けない。
5. 本文中に図・表をいれず, 別の用紙1枚に1図もしくは1表を印刷し, 末尾に付すること。

(2015年10月11日)